

令和8年度第1回狛江市基本計画推進委員会 会議録

- 1 日時 令和8年6月19日(金)午後7時00分～午後8時20分
- 2 場所 防災センター 402会議室・403会議室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司  
委員 村上 裕章 委員 酒井 淳子  
委員 武居 英子 委員 荒井 由実  
委員 樋口 太陽 委員 行武 真太郎  
委員 高木 瑞季 委員 富田 泰  
事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査  
安川企画調整担当主任 横山企画調整担当主事
- 4 欠席者 なし
- 5 議事 1 開会  
(1)委嘱状の交付について  
(2)委員長・副委員長の選出について  
2 諮問について  
3 令和8年度 狛江市基本計画推進委員会の進め方について  
4 評価対象施策の選定について  
5 その他

6 会議概要

1 開会

(1)委嘱状の交付について

—委嘱状机上配付—

(2)委員長・副委員長の選出について

委員長に福島委員、副委員長に上田委員を選出。

2 諮問について

—書面にて福島委員長に諮問—

3 令和8年度 狛江市基本計画推進委員会の進め方について

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御質問等あるか。

【委員】

なし

#### 4 評価対象施策の選定について

—事務局から説明—

【委員長】

まずは、事務局の説明に対する御質問あるか。

【委員】

市民アンケートの A グループ、B グループ、C グループはどういったグループか。

【事務局】

回答数の多かった施策を 10 ごとにグループ分けしたもの。市の取組を評価できると思うの設問において、A グループは属している施策については満足度が高い施策となっており、市の取組をもっと進めていくべきと思うの項目において A グループは期待値が高いと言える。

【委員】

市民アンケートは定期的に行っているのか。回答率の過去の推移はあるか。

【事務局】

市民アンケートは毎年実施をしている。回答率は去年と比べると若干減っている。コロナの時期だと高い回答率で推移していたが、回答方法を近年紙からオンラインに変更した関係で回答率が若干減少傾向にある。アンケートは無作為抽出で 2,500 人に送付しており、2,500 人についても、狛江市の人口の年齢分布に応じた人数に送付をしている。

【委員長】

2,500 人という人数は標準的な人数で、市民アンケートはこの自治体も毎年行っている。回答率についても、やり方が変わったということだが、これは経費削減の観点からか。

【事務局】

ペーパーレスの観点、そしてコロナ以降 LINE を使ったアンケートなど、オンラインも増えたので、市民アンケートについても方針を変えた。

【委員長】

他に質問はあるか。ないようであれば、施策の選定に移りたい。重点化した方向性から 2 施策選定する。済以外のところから選定をお願いしたい。選び方としては、道路などのハード面に関する施策は時間がかかる事業なので、あまり評価には向かない。また、参考までに今までに評価をした施策を伝えると、令和 6 年度が「放課後の活動場の充実」、「治水対策の推進」。令和 5 年度が「地域コミュニティ活動の活性化」「地域の防犯体制の充実」、「地域で暮らすための生活支援」。令和 4 年度が「歴史の継承と文化財の保存」「市内消費の拡大及び商業の活性化」「地域で支え合う子ども・子育て支援」「地域で支え合う仕組みづくり」。もちろんあえて重複させるのもよいが、施策評価は成果指標のため、特に令和 6 年度に評価したものは、状況があまり変わっていないと考えられる。したがって、今挙げた施策以外の方が評価する効果が高いかと思う。

【副委員長】

「市の取組をもっと進めていくべきと思う」の A グループから1つ選んだ方が市民への説明もつくと思う。そして先程話のあったハード面以外という観点で考えると「防災体制の充実」「日常生活における安心・安全の確保」「子ども・若者の居場所づくりと多面的な支援」の3つの中から選んだ方がよいのではないかと思う。その中でも「防災体制の充実」は、満足度が最も高いので外してもよいと考える。また、「日常生活における安心・安全の確保」は令和5年度にやっていることを考えると「子ども・若者の居場所づくりと多面的な支援」がよいと思う。重点化した方向性の「放課後の活動場所の充実」はすでに評価しているの、「子ども・若者の居場所づくり」はどうか。今回の市民委員は、前回に比べると年齢層も幅広く、評価しやすいのではないかと思う。

【委員長】

他にはいかがか。

【委員】

「切れ目のない子育て支援」はどうか。指標の現状値と目標値に一定の乖離があるため、計画どおりの進捗なのか確認するのはどうか。粕江の子育て支援に対する取組状況も知りたい。

【委員長】

施策は同じまちの姿でもよいか。

【事務局】

基本計画推進委員会を開催する4年間で2施策ずつ、計8施策程度を想定しており、評価対象となるまちの姿は7つあるので、なるべく網羅できるように選んでいただきたい。

【副委員長】

市民アンケートの市の取組を評価できると思うの C グループから選ぶのはどうか。一番評価の低い「組織づくり・人財育成の推進」は対象外のため、その次の「循環型社会の推進」はどうか。「循環型社会の推進」の重点化した方向性は「ごみの減量化・資源化の推進」となり、内容は市民意識に関することなどハード面ではないので一つの選択肢として提案したい。

【委員長】

他にはいかがか。

【委員】

市民アンケートの「市の取組を評価できると思う」は C グループ、「市の取組をもっと進めていくべきと思う」は A グループに近い施策が良いと思う。

【委員長】

そうすると、「障がい者への支援」と「地球にやさしい快適なまちづくり」となり、重点化した方向性はそれぞれ「地域生活を支える体制整備」「ゼロカーボンシティの実現」となるが、いかがか。

【委員】

もし私が2つ施策を選ぶとしたら「高齢者への支援」「商工業の振興」がよいと思う。市内を歩いていると高齢者の方が増えたという印象を受けるため、高齢者への支援を見直した方がよいのではないかと思う。「商工業の振興」についても、駅前はずごくきれいになったが、まだまだ進める余地があると考えてるので、提案したい。

【委員長】

「高齢者への支援」「商工業の振興」はどちらも過去に評価しているため、もう少し時間を空けてもよいかと思う。他にはいかがか。

【委員】

今、候補に挙がっているのは、「子ども・若者の居場所づくり」でこれはどちらかという支援、守る観点が強いので、もう一つの観点で選ぶとしたら、外に向かって発信するものがよいと思う。したがって「都市農業と触れ合う機会の拡充」はどうか。広報的な活動を重視する施策かと思うので、対外的な発信という観点で選んでも良いと思う。

【委員長】

他にはいかがか。特にないようであれば「地域生活を支える体制整備」「ゼロカーボンシティの実現」「都市農業と触れ合う機会の拡充」のいずれかになるがどうか。個人的には「水と緑の狛江」が目指すべきところなので、農業を入れてもよいかと思うが御意見あるか。

【委員】

市民の期待から言うと「障がい者への支援」が最も高いが、これはすでに選ばれている「子ども・若者の居場所づくりと多面的な支援」と似ているところもあり、分野的にも偏る気もする。「都市農業と触れ合う機会の拡充」は視点がかなり違うのでよいのではないかと思う。

【委員長】

他にはいかがか。それでは今回は「子ども・若者の居場所づくり」と「都市農業と触れ合う機会の拡充」を評価対象施策とするのはどうか。今年度は1年目の委員も多いため、まずやりやすい「子ども・若者の居場所づくり」から評価したい。

《各委員了承》

## 5 その他

【事務局】

本日選定された施策について、第2回以降の委員会において担当課作成資料の確認等していただく。また、後日メールにて、次回以降の委員会の日程調整をさせていただきます。

**【委員長】**

その他特に御意見等なければ、令和8年度第1回狛江市基本計画推進委員会を終了とする。